



ふるえがお



古江小 HP QR コード



令和7年2月20日

松江市立古江小学校学校だより（文責 校長：青山 巧）

寒波襲来！ こどもたちは寒さに負けずに外遊び！

2月5日～10日にかけて寒気団が居座り、農道では除雪車が稼働するほどで、古江小の敷地内にも多くの積雪がありました。

下の写真を見ても分かるように、こどもたちは普段ではできない遊びに夢中になっています。校庭、前庭、中庭と積もった雪を求めては、雪合戦をしたり、雪だるまを作ったりしていました。土曜日には家族総出で、家の前に直径1m以上の大きな雪だるまを作っていた1年生の姿も目にしました。「かまくらを作ったよ。」「そり遊びをしたよ。」「今朝登校班で歩くのがしんどかった。」などと教えてくれる子もたくさんいました。

車で通勤をする者にとっては、積雪や凍結はあってほしくはないのですが、こどもたちにとっては、またとない非日常を経験する貴重なものです。水たまりに張った氷を壊しながら歩く音と感覚、氷柱を発見した時の驚き、雪が融けやすい場所と融けにくい場所の違いなどを実感しながら、知識や知恵としてためていくことができたのではないのでしょうか。



児童総会

2月7日（金）5校時に児童総会が行われました。この日までに実行委員会を開いて、事前に各学級で発表する内容を考えてもらうなどの準備を進めてきました。委員会の代表が、与えられた時間で活動の振り返りを発表し、それに対する質問や意見を、自分の頭で整理しながら手際よく答えていく姿に、この1年間での成長を感じました。各クラスからの提案では、1年生をはじめどの学年・学級も、全校児童の前で堂々と伝えることができていました。昨年度から取り組んでいる発表された意見を入力して、スクリーンに映すことも6年生の手によって続けられていました。学校生活を自分たちの手で楽しく、より豊かにしていくことを真剣に考えた時間になりました。



4年生は、2月12日に松江市内の学校図書館にかかわる先生や学校司書の方に来ていただいて、学校図書館を活用した国語の授業を見ていただきました。

図書館での授業で、テーブルにグループごとに座るといったいつもと違う環境でありながらも、落ち着いて授業に取り組むことができた4年生。参観していただいた先生方からもたくさんほめていただきました。

オリジナルの数の単位を考える内容で、間違いはないけれども、論理立てて理由を説明したり、友達の考えに対して意見を伝えたりすることが重要です。そのためには書籍を利用して、根拠をもつ必要があり、学校司書の槇原先生に助言をもらいながら、アイディアを出していました。

昆布の単位を「みひら」と考えた班がありました。根拠はなんだかわかりますか？ 頭が固い私には、全く浮かびません。緑色で海の中でひらひら揺れているからだそうです。柔軟な発想ができるこの年代だからこそできる学びなのかもしれません。(因みに、緑色になるのは昆布ではなくてわかめだと私は思うのですが・・・)



卒業証書授与式まで、残り1か月を切りました。6年生は小学校生活の締めくくりに向けて、動き始めています。

在校生は5年生を中心に21日(金)に計画されている6年生を送る会に向けてラストスパートと最終確認を行っています。

この1か月で、高学年のこどもたちは飛躍的に成長します。誰かのために自分は何をすればいいのかを一人一人が考え、それが集まることでたし算ではなく、かけ算となって大きな力を発揮します。

そんなこどもたちと接していると私が元気をもらいます。「校長先生、今お話ししてもよろしいですか。」と校長室にやって来て、協力してほしいこと、やっていいか確認や許可をもらいたいことを伝え、交渉する姿から、こどもたちがわくわくしながら取り組んでいることがよくわかります。主体的な学びの姿がそこにはあります。社会に出て、活躍できる素地を少しずつ、且つ、確実につけていることに目を細めています。

自学ノートより

5年生の自学ノートを紹介します。

「△△らしいは使って良いのか」

説明：小学1年生のA君が、大人Bさんに「小学生らしくなったね。」と言われている。

※ ここから3つのシチュエーションを設定して、それぞれの状況で適切な対応を考えていました。

結果：△△らしいとは、その場にいる人の個性や性格などのことを考えて、△△らしいを使うかどうかを決めればいいのか。

以前は男らしい、女らしいという言葉が頻繁に使われ、男性像、女性像をステレオタイプで設定し、そこから外れている人に対して、〇〇らしくないという表現をされることもありました。

多様性が認められつつある中で、自学としてしっかり考え、結論を出していることに拍手です。